

1 外国語教育の重要性

国の第三期教育振興計画（平成30年度～令和4年度）は、「今後の教育政策に関する基本的な方針」の一つに「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」ことを掲げ、「グローバルに活躍する人材の育成」として外国語教育の強化を上げている。

- グローバル化の一層の進展が予想される中、日本が抱える社会課題や地球規模課題を自ら発見し、解決できる能力を有したグローバルに活躍する人材の育成が重要である。また、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、国内外の様々な場において、外国語で躊躇せず意見を述べ、他者と交流し、共生していくために必要な力を育成していくことが重要である。
- このため、初等中等教育から高等教育の各段階に応じた国際化に取り組む高等学校・大学等への支援や英語をはじめとする外国語教育の強化に努める（後略）。
- グローバル化への対応は、大都市圏だけの課題ではなく、地域が直接世界とつながる時代の中で、各地域においてもグローバルな視点をもって豊かな地域社会の創造・発展に積極的に貢献しようとする志を持った人材の育成が重要である。（抜粋）

2 国及び県の状況

(1) 国の動向

国は、中学校においてCEFRのA1レベルを有する生徒50%の育成を目指している。

- ※ CEFR (Common European Framework of Reference for Languages)  
英語を始め外国語の習熟度や運用能力を同一の基準で評価する国際標準。  
国際的な英語力のものさしで、欧州圏を中心に世界中で活用されている。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表 文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級～3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200			9.0 8.5				
C1	199 180	3299 2600	1400 1350	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160	2599 2300	1349 1190	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140	2299 1950	1189 960	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120	1949 1700	959 690		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100	1699 1400	689 270					620 320

(2) 岩手県の取組

- 「英語で未来を拓くワークショップ」を年2回実施  
ベーシック（小学校5年～高校3年）、アドバンス（中学1年～高校3年）
- 県中学校英語弁論大会の開催
- 中学1年生を対象とした英語確認テスト（CAN-DOテスト）の実施
- 中学2年生を対象とした英検 IBA の実施

3 当市の状況

(1) 外国語教育の重点化

- 外国語指導助手5名を配置し、各学校を週2回訪問
- 平成29年度から中学生に実用英語技能検定料を年1回全額補助
- 令和2年度から小学校に英語専科教員1名配置
- 市内各校教員で構成する学力向上研究委員会に外国語班を設置し、モデル授業を実践

(2) 英語力の状況

① 市内中学校の実用英語技能検定合格者人数の推移（単位：人）

	H29	H30	R元	R2	R3
5級(人)	278	178	185	232	163
4級(人)	191	161	131	221	115
3級(人)	93	73	82	89	72
準2級(人)	8	15	9	13	10
合格率(%)※	73.5%	57.2%	52.6%	75.5%	50.6%

※合格率  
合格者数/助成人数

② 市内中学3年生の英語教育状況調査結果（単位：人）

項目	H28	R3
A 英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒	110	256
B Aのうち CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒	38	73
C B以外でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒	47	14
D (B+C) / 中学3学年生徒数 上段：生徒数(人) 下段：%	85/332 25.6%	87/263 ※33.9%

(3) これまでの成果と今後の方向性

- 実用英語技能検定受験料全額補助の実施後、受験者数が増加し、英語力把握が容易になった。
- 中学1年生を対象とする岩手県英語確認調査では、全項目で県平均を上回っている。
- CERFAI レベル相当以上の中学3年生の割合は40%前後で推移し、目標値に近づいている。



ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実